

<国語科における活用のポイント>

- ・学習への興味や関心を高める（学習への主体的な参加を促す）
- ・個別最適な学びの充実（手立て）につなげる⇒個に応じたきめ細かな指導・支援
- ・協働的な学びの充実（手立て）につなげる ⇒考え方や作品等の共有、比較検討、資料等の作成
- ・学校の壁を越えた学習機会の創造
- ・学習履歴の蓄積（振り返り等での成果や課題の把握、意欲付け 等）

事例1 第1学年「話すこと・聞くこと」
第2学年 魅力的な（説得力のある）提案をしよう
-資料を示してプレゼンテーションをする-

使う機能：パワーポイント、検索

- ①インターネットを活用して学習課題に関連する情報を調べ、集めた情報を内容に応じて整理
 ※収集した情報をデータベース化
- ②プレゼンテーションソフト上でスライドを並べ替えるなどして、伝えたいことがより明確に伝わるよう、目的や意図、相手に応じて用いる情報を取捨選択
- ③デジタル教科書等を引用するなど、根拠を示すなどの工夫

効果的ポイント

見えにくい情報を可視化できるため、理解をより深められることが期待できる。また、情報の収集や取捨選択など、試行錯誤が容易である。



[留意点]

- ・順序や声の大きさ、資料提示のタイミングなど、聞き手を意識
- ・友達と聞き合ってアドバイス等の際、アドバイスの適正など観点をもつ

事例2 第3学年 編集して伝えよう 情報を読み取って文章を書こう

使う機能：編集ソフト、カメラ 等

- ①自分の考えを主張する内容を決める
 題材を選び、必要な情報を集める（調べる）
- ②文章の構成メモを作成する
- ③文章を推敲する
- ④原稿を完成させる

[留意点]

- ・理由と事実が考えに合っているか（図表やグラフなど）
- ・自分の考えと事実とを区別している

効果的ポイント

友達と確認し合うことで、効果的な資料の活用や工夫された構成など、協働的な学びを通して、考えを深めることにつなげられる。

事例3 第1学年 少年の日の思い出 インタビュー記事

使う機能：編集、カメラ 等

- ①登場人物の気持ちを想像して自分の考えをまとめる
 ※心情曲線などの工夫
- ②登場人物にインタビューするという設定で「新聞記事」を意識して文章を書く
- ③書いた記事について紹介し合う

[留意点]

- ・同じ形式・文字数（100字）など、書式等を統一させ書くべき内容を絞り込ませ、比較しやすいようにする

効果的ポイント

友達の書いた複数の文章を比較することで、多面的な読みに気づくことができる。また、試行錯誤しやすく、編集が容易である。